私　訳

『コリントの信徒のみなさんへ 第一』私訳（Ⅰ）

阿　部　　包

新共同訳聖書[1] で表題が「コリントの信徒への手紙　一」となっているこの手紙は，パウロの第三回宣教旅行の途上，紀元後おおよそ 53〜55 年の約二年間滞在したエフェソスにおいて，54 年頃に執筆されたと考えられている。その際，口述筆記を担当したのは，１節に名前が上がっている同労者ソステネス[2] であろう。

使徒言行録 18：1〜8 の記述によれば，コリントの教会は，パウロが第二回宣教旅行の際，アテネを経て当地に入り約一年半滞在した折に彼自身によって設立された。パウロは，皇帝クラウディウスによるユダヤ人退去令に従ってローマから移住してきていた同じユダヤ人のアクィラとその妻プリスキラ（短縮名プリスカでしばしば呼ばれる）の家に身を寄せて[3]，宣教に励んだ。そして，その結果，「会堂長[4] クリスポスがその家

---

[1]　共同訳聖書実行委員会『聖書新共同訳―旧約聖書続編つき』日本聖書協会，1987 年。

[2]　このソステネスが使徒言行録 18：17 に出るソステネスと同一人物であるとすれば，彼はコリントで信じるに至ったクリスポスと同じ会堂長ということになる。

[3]　彼らの職業はパウロと同じ「テント造り」skēnopoioi であった。ちなみに，パウロの故郷キリキア州はヤギの毛の特産地として名高かった。なお，パウロの「テント造り」に焦点を当てて研究したのがＲ・Ｆ・ホックである。Ｒ・Ｆ・ホック／笠原義久訳『天幕づくりパウロ　その伝道の社会的考察』日本基督教団出版局，1990 年，参照。

[4]　「会堂長」と訳されるのは，archisynagōgos である。そもそもシナゴーグ（ヘブライ語で通常「ベイト・ハクネセト（集いの家）」の機能は，礼拝の場，教育の場，共同体の集会の場を兼ねるものであった。シナゴーグの役職者は，そのシナゴーグがあるユダヤ人共同体の役職者でもあった。その最高

族全員とともに主を信じたが，多くのコリントの人々も聴いて信じ，洗礼を受けた」[5] のであった。

コリントの町にシナゴーグがあったことについては，発掘によって出土した「（シナ）ゴーグのヘブラ（イ）人」と刻まれた銘[6] によっても裏付けられるが，当時のユダヤ人共同体の規模や日常生活における彼らと他の住民との関係については，明らかではない。

パウロは，この手紙の中で特に名指ししている三人，すなわちガイオス，クリスポス，ステファナスに自ら洗礼を授けた後は，洗礼という入信儀礼に関しては彼らに委ねて，自身は専ら宣教に専念したようである。おそらく，彼らの自宅が「家の教会」として使われるようになっていったものと推測される[7]。

「家の教会」というのは，信徒たちの中の比較的裕福な人の家に一定数の信徒たち[8] が集まって行なわれた集会のことである。こうした「家の教会」が徐々に増えていき，指導者たちの福音理解や構成員の種々の条件によって個々の教会もそれぞれ独自の性格を備えるようになっていった。

コリントを訪れて宣教活動を展開する宣教者も，教会の設立者パウロ

管理者は「長老たち（ゼケニーム）」と呼ばれ，その中から一人あるいは数人選任されたのが常任管理者である「会堂長」であった。その任務は，公的礼拝の際の聖書朗読者，祈祷者，説教者などの指名であった。関谷定夫『シナゴーグ　ユダヤ人の心のルーツ』*LITHON*，2006 年，15〜16 頁，W. Schrage による synagōgē 関連項目 in *TDNT*, VII, pp. 798-852，参照。

5　使徒言行録 18：8，参照。

6　この刻銘は，シナゴーグの入り口上部の梁に刻まれていたものであるが，その時代については，確実なことは言えない。Cf., J. Murphy-O'Connor, *St. Paul's Corinth* (Good News Studies 6), Michael Glazier, 1983, p. 78. ただし，より後代（紀元後 4 〜 6 世紀）のものとする説もある。関谷定夫，前掲書，254〜256 頁，参照。

7　ローマ 16：23 の記述から，少なくとも，ガイオスはコリントにおける家の教会の提供者であった。

8　コリントの信徒たちの社会的身分・地位は，多様であった。ミークスによる「パウロの教会の会員たちの社会層」，ウェイン・A・ミークス／加山久夫監訳，布川悦子・挽地茂男訳『古代都市のキリスト教　パウロ伝道圏の社会学的研究』ヨルダン社，1989 年，144〜204 頁，参照。

だけではなかった。1：12 に出る「『わたしはパウロにつく』，『いや，わたしはアポロに』，『いや，わたしはケファに』，『いや，わたしはキリストに』」という主張の背景には，こうした宣教者の違いや，同じ福音を伝える際の彼らの強調点の違い，また，それぞれの「家の教会」によるそれらの受け止め方の違い，という問題が横たわっているだろう。さらに，われわれは，アポロが聖書に詳しい「雄弁家」であったこと[9]，ケファが生前のイエスから直接教えを受け行動を共にした直弟子であったこと，それに比べてパウロは病気持ちで風采が上がらず，しかも「手紙は威厳があって力強いが，直接会ったときの彼は貧弱でその言葉も取るに足りない」と噂されていたこと[10] を知っている。

いずれにせよ，クロエの家の使者がもたらした情報は，パウロに福音の危機を感じさせたであろう。パウロの理解では，重要なのは，誰が洗礼を授けたかでもなければ，誰が福音を告げ知らせたかでもない。むしろ，十字架につけられたイエスこそメシア（キリスト）だという神秘が重要なのであるが，それはしかし，この世の知恵にとっては愚かさに他ならない。神の知恵は，このように，この世の知恵と対立する神秘の中に啓示されており，この世の知恵の誇りは，神の知恵によって粉砕され無力なものとされるのである。

2：2 で強調されているとおり，パウロはコリントの人々の間では，十字架につけられたメシア（キリスト）であるイエス以外のことは何も知るまいと決意して，宣教に臨み，それを実践したのであった。これこそ，彼の同胞であるユダヤ人にとっても，結果的に彼の宣教活動の主たる対象となった異邦人にとっても，福音の核心そのものであった。

その福音の核心たるキリストが，その弟子の一人や他の競合する宣教者たちと同列に置かれてしまう分裂騒ぎがコリントの信徒たちの間に生じたわけである。パウロの許に届いたのは，分裂騒ぎの情報だけではなかった。信仰共同体内部に性的不品行や日常的な訴訟沙汰が生じている

---

[9] 「生まれがアレクサンドリアのユダヤ人でアポロと言う名前の雄弁家（anēr logois）が，エフェソスにやって来たが，彼は聖書に精通した人物（dynatos ōn en taîs graphaîs）であった。」使徒言行録 18：24，参照。

[10] 2 コリント 10：10，参照。

という知らせも同時にもたらされたのであった。パウロは，こうした現実に照らして，信徒たちをめぐる状況は，神の国を相続できるものではないと批判し，自分たちのからだが聖霊が宿っている神殿であることをわきまえ，信仰に入った当時の正しい道に立ち返りなさいと勧告する。

なお，『コリントの信徒のみなさんへ　第一』私訳は，三回に分けて掲載する予定であるが，今回はそのうちの１～６章である。翻訳に際して心がけた原則は，従来の「私訳」のとおり，ギリシア語原文[11] と対照しながら読んで分かりやすいこと，また，日本語としても自然に論理展開を追うことができること[12]，である。訳注はページ毎の脚注形式で付すが，必要最小限にとどめる。

なお，翻訳に当たって参照した文献については，次回にまとめて一覧を示すことにする。

---

[11]　底本は，従来どおり，NESTLE-ALAND, *NOVUM TESTAMENTUM GRAECE*, Ed. XXVII, Deutsche Bibelgesellschaft, Stuttgart, 1993 である。

[12]　ギリシア語原文の文章の流れや論理展開も重視し，可能な限り文章の順番どおり訳出するよう努めた。

コリントの信徒のみなさんへ　第一[13]

1

〈挨拶と感謝〉

1神の意志によって[14]キリスト・イエスの使徒として召されたパウロ，そして兄弟ソステネスが，2コリントにある神の教会へ，すなわち，キリスト・イエスにあって聖別されて[15]，召された聖なる者たちに[16]宛てて（この手紙を送ります）。（あなたがたは）あらゆるところでわたしたちの主イエス・キリストの名を呼び求めているすべての人々と共に[17]（召されて聖なる者とされました）。（イエス・キリストは）彼らとわたしたちの（主なのです）。3わたしたちの父である神と主イエス・キリストから恵

13　PROS KORINTHIOYS A′。直訳では「コリントの人々へ　一」。従来は，「コリント人への第一の手紙」（協会訳，フランシスコ会聖書研究所訳，青野訳），「コリント人への手紙　第一」（新改訳）「コリントの信徒への手紙一」（新共同訳），など。ただし，元来，特に本文の前に表題が付けられる習慣がなかった事実から，田川のように2節冒頭の句を活かして「コリントにある神の教会へ　第一」とするのが順当かもしれない（田川は「コリントスにある神の教会へ，第一」）。

14　「神の意志によって」は，dia thelēmatos theou。

15　「聖別されて」は，hēgiasmenois で，hagiazō「聖なるものにする，清める，聖別する」の受動完了分詞，男性・複数・与格。「聖なる者とされた人々」（新共同訳），「聖められた者たち」（青野訳），「きよめられ」（協会訳），「聖められ」（前田訳），「聖化された人々」（田川訳），「神のものとしてささげられ」（フランシスコ会聖書研究所訳）など。6：11，参照。

16　ローマ1：7，参照。

17　ここの「ともに」（syn）以下の句は，先行する「聖なるものとされて」（hēgiasmenois）および「召された」（klētois）「聖なる者たち」（hagiois）に関係すると解するのが自然。ただし，田川は，この syn を kai の代用（「また」）と解し，次のように解説を加えている。「この書簡ははじめから単にコリントスの教会にあてられただけでなく，世の中のすべてのクリスチャンに読んでもらうために書かれた，ということになる。特定の読者を想定した私信であるとともに，不特定多数の読者に向けた公開の文書のつもりであろう。……（中略）……全世界のクリスチャンよ，照覧あれ，という意気込みなのだ。」

みと平和があなたがたに[18]（ありますように）。

4わたしは，キリスト・イエスにあってあなたがたに与えられた[19]神の恵みのために，あなたがたについていつもわたしの神に感謝しています。5それは，あなたがたがあらゆることで，（すなわち，）あらゆる言葉，あらゆる知識において，キリストにあって豊かにされたからです。6つまり，キリストの証しがあなたがたの間で堅固なものとなり[20]，7その結果，あなたがたはどんな賜物にも欠けることなく，わたしたちの主イエス・キリストの出現[21]を待ち望んでいる[22]のです。8主はまた，あなたがたを，わたしたちの主イエス・［キリスト］の日に，全く咎められるところのない[23]者として堅固にしてもくださるでしょう[24]。9神は真実な方です。この神によって，あなたがたは，その御子[25]，わたしたちの主イエス・キリストとの交わりへと召されたのです。

〈教会内部の分裂〉

10さて，兄弟のみなさん，わたしたちの主イエス・キリストの名によってあなたがたに勧めます。皆，同じことを語り[26]，あなたがたの間に分裂

---

18 3節は，ローマ1：7と同じ文章。

19 「キリスト・イエスにあってあなたがたに与えられた」は，tē$_{i}$ dotheisē$_{i}$ hymīn en Christō$_{i}$ Iēsou。「与えられた」（dotheisē$_{i}$）は，1 aor. 受動分詞。過去の一回限りの出来事，つまり，救いの出来事としてのイエスの十字架を指す。

20 「堅固なものとなり」は，ebebaiōthē＜bebaiō「bebaios にする」＜bebaios「堅固な，確かな，確実な」。1 aor. 受動・3人称，単数。「確かなものとなった」（新共同訳），「確かなものとされ」（協会訳），「確固たるものとされた」（青野訳），「確実になった」（田川訳），「しっかりと根を下ろした」（フランシスコ会聖書研究所訳）など。

21 「出現」と訳したのは，tēn apokalypsin。apokalypsis は，「被いを取り除くこと，現すこと」が原義で，通常「啓示」と訳されるが，ここでは世の終わり，終末におけるキリストの出現・顕現を指して使われている。

22 フィリピ3：20，参照。

23 「全く咎められるところのない」は，heōs telous anenklētous。anenklētos「咎められるところのない」という形容詞は，パウロではここだけの用例。

24 「堅固にもしてくださるでしょう」は，kai bebaiōsei。

25 「その御子」は，tou hyiou autou。

26 「皆，同じことを語り」は，to auto legēte pantes。「あなた方みなが同じ

がなく，同じ思い，同じ考えで[27]，正しい道に立ち返りなさい[28]。11 なぜなら，わたしの兄弟のみなさん，あなたがたについてわたしに知らせがあった[29] からです。それはクロエの（ところの）者たちからでしたが，あなたがたの間に争いがあるとのことでした。12 わたしがこう言うのは，あなたがたが各自，「わたしはパウロにつく」，「いや，わたしはアポロに」，「いや，わたしはケファに」，「いや，わたしはキリストに」[30] などと

ことを語り」（田川訳）が最も原文に忠実。次いで「みんな同じ主張をし」（フランシスコ会聖書研究所訳）「みな語ることを一つにし」（協会訳），「皆がひとつことをいい」（前田訳），「一つのことを語り」（青野訳）など。「皆，勝手なことを言わず」（新共同訳）や「みなが一致して」（新改訳）訳し過ぎだったり，訳し不足だったり。因みに，NRSV が〝all of you be in agreement″。

[27] 「同じ思い，同じ考えで」は，en $tō_i$ $autō_i$ noi kai en $tē_i$ $autē_i$ $gnōmē_i$。「心を一つにし思いを一つにして」（新共同訳），「同じ心，同じ思いになって」（協会訳），「同じ心，同じ思いで」（フランシスコ会聖書研究所訳），「一つの思い，一つの考えにあって」（青野訳），「同じ思い，同じ認識へと」（田川訳）など。なお，この 10 節については，ローマ 12：16，15：15，2 コリント 13：11，フィリピ 2：2，4：2，参照。

[28] 「正しい道に立ち返りなさい」は，ēte de katērtismenoi。eimi の未完了過去，2 人称，複数と katartizō の受動・完了分詞，男性・複数，主格。「固く結び合いなさい」（新共同訳），「固く結び合っていてほしい」（協会訳），「しっかり団結してください」（フランシスコ会聖書研究所訳），「結び合わされるように」（青野訳），「回復されるように」（田川訳）など。ガラテヤ 6：1 に「霊的な人であるあなたがたは，柔和の霊によって，そのような人を正しい道に立ち返らせなさい」（hymeis hoi pneumatikoi katartizete ton toiouton en pneumati prāytētos）とある。katartizō は，「再び元の正しい状態に戻す，復旧する，正しい道に立ち返らせる，完全な状態にする，準備する，用意する」などを意味する。

[29] 「知らせがあった」は，edēlōthē＜dēloō「開示する，明らかにする，伝える，知らせる」。1 aor. 受動，3 人称，単数，hoti 以下「あなたがたの間に争いがある」を受ける。

[30] 「わたしは……に（つく）」と訳したのは，egō（eimi）＋固有名詞属格である。直訳すれば，「わたしは……に属する」。分派争い，分裂騒ぎを示唆する。従来，egō men eimi Paulou を「わたしはパウロにつく」と訳し，続く eimi が省略された形を「わたしは……に」と訳すのが通例となってきた（協会訳，新改訳，新共同訳）。私訳もそれに倣ったもの。「……のもの」と直訳

言っているという件です。13 キリストは分裂してしまったのですか[31]。パウロですか，あなたがたのために十字架につけられたのは。パウロの名によって[32] ですか，あなたがたが洗礼を受けたのは。14 わたしは[神に]感謝しています。あなたがたのうちクリスポスとガイオス[33] 以外の誰にも，わたしが洗礼を授けなかったことを。15 だから，あなたがたがわたしの名によって[34] 洗礼を受けた，などとは誰も言うまい[35]。16 否，ステファナスの家(の人々)[36] にもわたしは洗礼を授けました。しかし，それ以外，他の誰かに洗礼を授けた覚えはありません[37]。17 なぜなら，キリス

的なのは，フランシスコ会聖書研究所訳，青野訳。田川訳は「私はパウロにつくとか，いや私はアポロだ，私はケパだ，私はキリストだなどと」と勢いがいい。

31 「分裂してしまった」は，memeristai。merizō「分割する」(受動で「分裂する」) の受動，現在完了，3 人称，単数。「いくつにも分けられた」(協会訳)，「幾つにも分けられてしまった」(新共同訳)，「分割された」(新改訳)，「ばらばらに分けられてしまった」(フランシスコ会聖書研究所訳)。「分裂してしまった」は田川訳に同じ。

32 「パウロの名によって」と訳したのは，eis to onoma Paulou。baptizō の受動態が eis Christon Iēsoun（ローマ 6：3）や eis Chrston（ガラテヤ 3：27）とともに用いられる場合は，「洗礼を受けてキリスト・イエスと一つになった」(前者)，「キリストと一つになるために洗礼を受けた」(後者) と訳すのがよいと思われるが，われわれの箇所のように eis to onoma＋固有名詞属格の場合は，en $tō_i$ onomati＋固有名詞属格と意味は同じと考えられる。ただし，フランシスコ会聖書研究所訳と青野訳は en と区別した訳をしている。それぞれ順に，「パウロのものとなるために」，「パウロの名に〔帰依する〕」。

33 クリスポスについては使徒言行録 18：8，ガイオスについては同 19：29，ローマ 16：23，参照。後者によれば，ガイオスは，コリントの「教会全体に宿を提供してくれている家の主人」であり，信徒たちの間で指導的役割を果たす人物であった。

34 ここも eis to emon onoma と eis が用いられている。

35 「だから」は，結果を表す hina を訳したもの。「誰も言うまい」は，mē tis $eipē_i$。

36 16：15〜17，参照。そこで，ステファナスの家(の人々)は「アカイア(州)の初穂」と呼ばれ，聖なる者たちへの奉仕に身をもって尽くした人々として讃えられている。

37 「覚えはありません」は，ouk oida。oida は「知っている，覚えがある」。

トがわたしを遣わされたのは，洗礼を授けるためではなく，福音を宣べ伝えるため[38]だからです。しかも，言葉の知恵によらずに[39]（そうする）のですが，それは，キリストの十字架が無に帰してしまわないため[40]なのです。

〈神の力，神の知恵であるキリスト〉

18 なぜなら，十字架の言葉は，滅びる者どもにとっては愚か[41]ですが，救われるわたしたちにとっては神の力だからです。19 それは，こう書かれているからです。

わたしは知者たちの知恵を滅ぼし，
また，賢者たちの賢さを廃棄するだろう[42]。

20 どこにいるのか，知者は[43]。どこにいるのか，律法学者は[44]。どこにい

---

[38] 「福音を宣べ伝えるため」は，euangelizesthai。単に「福音を伝えるため」（田川訳）も可。協会訳，新改訳，フランシスコ会聖書研究所訳がわれわれと同じ。新共同訳，青野訳は「福音を告げ知らせるため」。いずれにしても，euangelion「福音」との関係を訳語に出すために説明的にならざるをえない。

[39] 2：1，参照。

[40] 「無に帰してしまわないため」は，hina mē kenōthē$_{i}$。「無力なものになってしまわないため」（協会訳），「むなしいものになってしまわぬように」（新共同訳），「むなしくならないために」（新改訳），「空しくされないために」（青野訳），「無意味なものとならないように」（フランシスコ会施諸研究所訳）。なお，田川は語順を活かすために語を補って「知恵の言葉によってでは，……無になってしまう」（田川訳）と訳している。

[41] 「愚か」は，mōria。mōria は「愚かさ，愚鈍」。われわれの箇所は，むしろ「戯言」とでも訳す方が納まりがよいか。「馬鹿らしいこと」（フランシスコ会聖書研究所訳）も。

[42] LXX 訳イザヤ 29：14，参照。イザヤの当該箇所とパウロの引用文で異なるのは最後の単語だけであり，イザヤでは krypsō「隠すだろう」が用いられている。パウロは，引用に当たって krypsō をより強い表現である athetēsō に替えた。「廃棄するだろう」（athetēsō）については，LXX 訳詩編 32：10（atheteī が 2 度用いられている），参照。詩編 33：10（新共同訳）では「（主は）挫かれる」に当たる。

[43] LXX 訳イザヤ 19：12「どこにいるのか，お前の知者たちは」（pou eisin nyn hoi sophoi sou;），参照。

[44] LXX 訳イザヤ 33：18（pou eisin hoi grammatikoi;），参照。

るのか，この世の論客は。神は世界の知恵を愚かなものとされたではありませんか[45]。21 すなわち，神の知恵のうちにありながら，世界はその知恵によって神を認識することがなかったので，神は宣教の愚かさによって信じる人々を救おうと決められたのでした。22 ユダヤ人はしるしを求め，ギリシア人は知恵を探し求めますが，23 わたしたちは十字架につけられたキリストを宣教します。これは，ユダヤ人にとっては躓き[46]，異邦人にとっては愚かですが，24 召された人自身にとっては，ユダヤ人であってもギリシア人であっても，このキリストこそ神の力[47]，神の知恵なのです。25 なぜなら，神の愚かなもの[48] は人間よりも知恵があり，神の弱いもの[49] は人間よりも強いからです。

26 実際，兄弟のみなさん，あなたがたの召命をよく見なさい。肉に従って見た[50] 知者は多くなく，有力者[51] も多くなく，良い生まれの者[52] も多くありません。27 しかし，知者たちを辱めるために世界の愚かなものを神は選び出し，強いものを辱めるために世界の弱いものを神は選び出されました。28 また，世界の賤しい生まれのもの[53] や，軽蔑されているも

---

45 3：19，LXX 訳イザヤ 44：25，参照。

46 ローマ 9：32，ガラテヤ 5：11，マタイ 13：57，参照。

47 ローマ 1：16，参照。

48 「愚かなもの」は，to mōron。「愚かさ」（協会訳，新改訳，新共同訳，フランシスコ会聖書研究所訳，青野訳，田川訳），「愚か」（前田訳）。

49 「弱いもの」は，to asthenes。「弱さ」（協会訳，新改訳，前田訳，新共同訳，フランシスコ会聖書研究所訳，青野訳，田川訳）。

50 「肉に従って見た」は，kata sarka。「肉による」（田川訳），「肉によって言えば」（青野訳），「人間的に見て」（新共同訳），「人間的な見方をすれば」（フランシスコ会聖書研究所訳），「人間的には」（協会訳），「この世の」（新改訳）。

51 「有力者」は，dynatoi。「力のある者」（フランシスコ会聖書研究所訳），「力ある者」（青野訳），「能力のある者」（新共同訳），「権力のある者」（協会訳），「権力者」（新改訳），「権力ある者」（田川訳）。「有力者」は本田訳に同じ。

52 「良い生まれの者」は，eugeneīs。「生まれの良い者」（田川訳），「家柄のよい者」（新共同訳，本田訳），「身分の高い者」（協会訳，フランシスコ会聖書研究所訳，新改訳）。

53 「卑しい生まれのもの」は，ta agenē。「生まれのないもの」（田川訳），「生まれのよくないもの」（青野訳），「取るに足らないもの」（フランシスコ会聖

の[54]を神は選び出されました。それらは存在しないもの[55]ですが，（神がそれらを選び出されたのは）存在するものを無力にするため[56]でした。29 それは，どんな肉（なる者）も神の前で誇ることがないためです[57]。30 この神のお陰で[58]，あなたがたはキリスト・イエスの内にあり[59]，このキリストこそわたしたちにとって神からの知恵，義と聖化と贖い[60]となられたのです。31 それは，「誇る者は，主にあって誇れ」[61]と書かれているとおりになるためです。

書研究所訳），「取るに足りない者」（新改訳），「無に等しい者」（新共同訳）「身分の低い者」（協会訳），「身分いやしい者」（本田訳）。

[54] 「軽蔑されているもの」は，ta exouthenēmena＜exoutheneō「軽んじる，軽蔑する，蔑む」。受動完了分詞，中性・複数。「軽んじられているもの」（フランシスコ会聖書研究所訳），「軽蔑されているもの」（青野訳），「蔑まれているもの」（田川訳），「軽んじられている者」（協会訳，本田訳），「見下されている者」（新改訳），「見下げられている者」（新共同訳）。

[55] 「存在しないもの」は ta mē onta で，「（生まれも力も知恵も）ないもの」を，一方，「存在するもの」は ta onta で，「（生まれや力や知恵が）あるもの」を意味する。田川訳も，「存在するもの」，「存在しないもの」と原文のニュアンスを活かした訳。「有力なもの」，「無きが如きもの」（青野訳），「地位のある者」，「無に等しい者」（新共同訳），「何らかの場を得ているもの」，「無に等しいもの」（フランシスコ会聖書研究所訳）のような説明的な訳は，むしろ原文のニュアンスを伝えきれない。「存在しないもの」と「存在するもの」については，ローマ 4：17，参照。

[56] 「無力にするため」は，hina……katargēsē$_{i}$。

[57] ローマ 3：27，参照。

[58] 「この神のお陰で」と訳したのは，ex autou。autou は，前節末尾の tou theou を受ける。

[59] フィリピ 3：9，参照。

[60] 「義と聖化と贖い」については，青野も指摘するとおり，パウロ以前からの伝承の可能性が高いだろう。義と贖いについては，ローマ 3：21～25，参照。

[61] LXX 訳エレミヤ 9：22 f.，参照。ローマ 5：11，2 コリント 10：17，ガラテヤ 6：14，フィリピ 3：3，参照。

2

〈十字架につけられたキリストを宣教する〉

1兄弟のみなさん，わたしもまた，あなたがたのところへ行ったとき，言葉や知恵の卓越性に頼らずに[62]，神の神秘[63]をあなたがたに告げ知らせました。2というのは，わたしは，あなたがたの間ではイエス・キリスト以外のことは何も知るまい，と決めていたからです。しかも十字架につけられたキリスト以外は[64]。3わたしもまた，衰弱と恐れと多くのおののきに包まれてあなたがたのところに到着しました[65]。4わたしの言葉も，わたしの宣教も，知恵の説得力［ある言葉］によらずに，むしろ，霊と力の証明によった[66]のです。5それは，あなたがたの信仰が人間の知恵によらず，神の力によるものとなるためです。

〈神の霊による啓示〉

6しかし，完全な者たちの間では[67]，わたしたちは知恵を語ります。しかし，それはこの世の知恵ではありませんし，ましてや，この世の無力

---

[62] 1：17，2コリント1：12，参照。「言葉と知恵の卓越性によらずに」は，ou kath' hyperochēn logou ē sophiās。「卓越した言葉や知恵によらずに」の方が日本語としては分かりやすいが，重点は「卓越性」にある。

[63] 「神の神秘」は，to mystērion tou theou。「神の奥義」（青野訳），「神の秘義」（田川訳），「神の秘められた計画」（新共同訳），「神のあかし」（協会訳，新改訳：これは，ネストレ25版以前の本文が採用していた多数写本の読みmartyrionに従ったもの）。「神の神秘」と訳しているのは，フランシスコ会聖書研究所訳と本田訳。いずれにせよ，パウロは，7節を先取りして，ここで「神の神秘」を語る。

[64] 1：23，ガラテヤ6：14，参照。

[65] 「到着しました」は，egenomēn＜gīnomai。なお，「衰弱と恐れと多くのおののきに包まれて」は，en astheneiāi kai en phobōi kai en tromōi pollōi の訳。

[66] 1節，4：20，2コリント6：7，ローマ1：16，1テサロニケ1：5，参照。

[67] 「完全な者たちの間では」は，en tois teleiois。「完全な者」は，フィリピ3：15にも出る。なお，同3：12も参照。さらに，田川の注，参照。田川建三『新約聖書　訳と注　3　パウロ書簡　その一』，作品社，244〜245頁。

にされる支配者たちの[68]知恵でもありません。7むしろ，わたしたちは神の知恵を語りますが，それは神秘のうちにこれまで隠されて来たもの[69]，神が世の（創造よりも）前にわたしたちの栄光のために予め定めておられたもの[70]，8この世の支配者の誰一人として知ることのなかったものです。実際，もし，彼らが（この知恵を）知っていたなら，栄光の主を十字架につけてしまうことなどなかったでしょう。9むしろ，これは次のように書かれているとおりです。

目が見ず，耳も聞かず，
　人間の心に浮かんでも来なかったこと，
それを，神は御自身を愛する者たちのために準備された，[71]と。

10それで，わたしたちには，神は霊[72]をとおして啓示されたのです。というのは，霊はあらゆることを探り，神の深みをも（探る）からです。11人間の事柄については，その人のうちにあるその人の霊以外に，人間たちの誰が知るでしょう。同じように，神の事柄についてもまた，神の霊以外に，認識した者はありません。12しかし，わたしたちは，世界の

---

68 「無力にされる支配者たちの」は，tōn archontōn……tōn katargoumenōn。1：28に，「存在するものを無力にするため」（hina ta onta katargēsē$_{i}$）とある。

69 「これまで隠されてきたもの」は，tēn apokekrymmenēn で，apokekrymmenēn は apokryptō「隠す」の現在完了，受動分詞，女性，単数，対格。「神の知恵」を修飾している。

70 「予め定めておられたもの」は，hēn proōrisen で，proōrisen は proorizō「予め定める，前もって定める」の1 aor. 3人称，単数。内容的には，ローマ9：23も参照。

71 少なくとも，この3行全体の出典は定かではない。1行目については，オリゲネスが『マタイ福音書注解』27：9で，今は現存しないユダヤ教偽典「エリヤの黙示」からの引用を示唆している。類似表現は，イザヤ64：3の他に52：15，65：16，2行目については，エレミヤ3：16，3行目については，シラ1：10，ローマ8：28，参照。また，1～2行目とよく似た文言がトマス福音書17にあるが，おそらく，パウロの影響と考えるのが順当。以上については，特に田川，前掲書，246～247頁，R・B・ヘイズ／焼山満里子訳『現代聖書注解　コリントの信徒への手紙1』日本キリスト教団出版局，2002年，91～92頁，参照。

72 ローマ8：14～16，参照。

霊[73]を受けたのではなく，神からの霊[74]を（受けたのです）。それは，神からわたしたちに恵みとして与えられたもの[75]をわたしたちが知るためです。13（与えられた）それらのものを，わたしたちは語りもするのですが，それは，決して人間的な知恵が教える言葉によってではなく，霊が教える言葉によって，霊的なものによって霊的な事柄を解釈しながら[76]（そうするのです）。14 ところが，自然的ないのちの人間[77]は，神の霊の事柄[78]を受け入れることがありません。なぜなら，それらは彼にとって愚かなので，彼は（それらを）認識できないからです。というのは，それらは霊的に判断されるものだからです[79]。15 しかし，霊的な人は，すべて［の事柄］を判断しますが，その人自身は誰からも判断されることがありません。16 実際，「誰が主の思いを知っていたか。主に教えることができようか。」[80] しかし，わたしたちは，キリストの思いを（現に）持っ

---

73 「世界の霊」は，to pneuma tou kosmou。

74 「神からの霊」は，to pneuma to ek tou theou。

75 「神からわたしたちに恵みとして与えられたもの」は，ta hypo tou theou charistenta hymīn。ローマ 8：32，参照。

76 「解釈しながら」は，synkrinontes。「説明する」（新共同訳），「判断しながら」（青野訳），「判断しつつ」（田川訳），「解く」（新改訳），「解釈する」（協会訳）など。

77 「自然的ないのちの人間」は，psychikos anthrōpos。「生まれながらの人間」，「自然のままに生きている人間」，「生まれたままのいのちを生きている人間」。田川，前掲書，248 頁，参照。パウロは，人間をその生き方に従って，肉的な人間（sarkikos anthrōpos），自然的ないのちの人間，霊的な人間（pneumatikos anthrōpos）の三段階，三種類に分けて考えている。

78 「神の霊の事柄」は，ta tou pneumatos tou theou。

79 「判断される」は，anakrinetai。anakrinetai の主語は，「神の霊の事柄」中性，複数。hoti 以下を理由として読む。自然的ないのちの人間は，対象が神の霊の事柄であっても，霊的に判断することができず，厭くまでも自然的に判断するために，それらを受け入れることができない，という論法。なお，anakrinō は，「取り調べる，尋問する，問い質す，判断する，批判する」など，かなり広い意味領域をカバーする語である。4：3 f. では文脈上「裁く」と訳した。

80 LXX 訳イザヤ 40：13「誰が主の思いを知っていたか，また，誰が主の助言者になって，主に教えたか。」からの引用。パウロは，ローマ 11：34 では，このうち「誰が主の思いを知っていたか」と次の「誰が主の助言者となっ

ているのです。

3

〈神のために共に働く者〉

1兄弟のみなさん，わたしもまた，あなたがたには，霊的な人々に対するように語ることができず，むしろ肉的な人々に対するように，キリストにある幼子[81]に対するように（語りかけました）。2あなたがたにわたしは乳を飲ませましたが，食べ物は与えませんでした。なぜなら，あなたがたにはまだその力がなかった[82]からです。それどころか，あなたがたは今なお力がないままでいます[83]。3それは，未だにあなたがたは肉的だからです。実際，妬みや争いがある限り，あなたがたは肉的であって，人間を尺度にして[84]歩んでいることにならないでしょうか。4誰かが「わたしはパウロにつく」と言い，別の誰かが「わたしはアポロに」などと言っている[85]のであれば，あなたがたは（単なる）人間ではありませんか[86]。　5では，アポロとは何でしょうか。また，パウロとは何でしょうか。（二人とも）奉仕者で，この二人をとおしてあなたがたは信じるよ

たか」だけを引用し，われわれの箇所では，「誰が主の助言者となったか」を省いて，代わりに最後の「主に教えたか」（hos symbibã¡ auton）を「主に教えることができようか」（hos symbibasei auton）と動詞の時制を未来に変えて引用している。なお，「思いを」と訳したのは noun。「知っていた」は egnō。前者は，むしろ「理性，叡智」，後者は「認識していた」が本文の議論の文脈にはしっくりする訳語かもしれない。

81 「幼子に」は nēpiois。「幼子」は，13：11，1テサロニケ2：7にも出る。

82 「あなたがたにはまだその力がなかった」は，oupō……edynasthe。

83 「あなたがたは今なお力がないままでいます」は，oude eti nyn dynasthe。

84 「人間を尺度にして」と訳したのは，kata anthrōpon。「ただの人のように」（新改訳），「ただの人として」（新共同訳），「人間（の思い）に従って」（青野訳），「人間的な仕方で」（田川訳），「普通の人間のように」（協会訳）「生まれながらの人間として」（フランシスコ会聖書研究所訳）など。

85 1：12，参照。

86 「あなたがたは（単なる）人間ではありませんか」の原文は，ouk anthrōpoi este;。

うになったのです。しかも，各自，主がお与えになった分のとおりに(奉仕しています)。6わたしは植えましたし，アポロは水をやりました。しかし，神が成長させてくださったのです。7だから，植える者と水をやる者は何ほどのものでもなく[87]，むしろ，成長させてくださる神が(重要なのです)。8植える者と水をやる者は一つですが，それぞれが自分の労苦に従って[88]自分の報酬を受けるでしょう。9実際，わたしたちは神の同労者[89]，あなたがたは神の畑，神の建物なのですから。　10わたしに与えられた神の恵みに従って[90]，熟練した建築家[91]のように，わたしが土台を据えました。そして他の人がその上に建物を建てているわけです。しかし，どのようにその上に建てるべきか，各自それぞれに注意しなさい。11なぜなら，現に据えられているイエス・キリストという土台に代えて，それとは別の土台を誰も据えることはできないからです。12しかし，もし，誰かがその土台の上に，金，銀，宝石，木，草，藁で建物を建てるなら，13各人の仕事は明らかになるでしょう[92]。なぜなら，かの日が（それを）明るみに出すからです。すなわち，火の中で被いが取り払われ[93]，各自の仕事がどのようなものであるかを，火［そのもの］が吟味検証することになる[94]からです。14もし，（その土台の）上に建てた誰かの仕事が（それに耐えて）残るならば，その人は報酬を受けるでしょう。

---

87 「何ほどのものでもなく」は，oute……estin ti oute……。

88 「自分の労苦に従って」は，kata ton idion kopon。

89 「神の同労者」は，theou……synergoi。むしろ「神のために協力して働く者」の意味。

90 15：10，ローマ15：15，参照。

91 「熟練した建築家」は，sophos architektōn。直訳は「建築家の中の知者」あるいは，「知恵ある建築家」。ただし，職業，技術，芸術に関するsophosの一般的な意味から「熟練した建築家」とした。本文の他の箇所に出る「知者」との意味上の直接的な関連は残念ながら消えてしまうが，分かりやすさを優先した。

92 4：5，参照。

93 「被いが取り払われ」は，apokalyptetai。apokalyptō「被いを取り除く（取り払う），露にする」の現在，受動。

94 「検証吟味することになる」は，dokimasei。dokimazōの未来，3人称，単数。1テサロニケ2：4，参照。

15 もし，誰かの仕事が焼き尽くされてしまうならば，その人は損害を被るでしょう。しかし，その人自身は救われるでしょう，あたかも，火の中を通り抜けた者のように。16 あなたがたは知らないのですか，あなたがたが神の神殿であって，神の霊があなたがたの中に住んでいるということを[95]。17 もし，誰かが神の神殿を滅ぼすならば，神がその人を滅ぼすでしょう。なぜなら，神の神殿は聖なるものであり，あなたがたがまさにそれ[96] だからです。

18 誰も自分自身を欺いてはなりません。もし，あなたがたの中の誰かが自分はこの世において知者だと思っているならば，むしろ愚か者になりなさい。そうすれば，知者になれます[97]。19 なぜなら，この世界の知恵[98] は神の許では愚かだからです。実際，（次のように）書かれています。「（神は）知者たちを，彼らの悪賢さにおいて捕らえる方」[99]。20 そし

---

[95] 6：19，2 コリント 6：16，ローマ 8：9，参照。

[96] 「それ」と訳したのは，hoitines で「神の神殿」を受けるが，原文では主語の「あなたがた」に合わせて複数になっている。

[97] 「そうすれば……」は，hina……の訳。このように「結果」として訳すことも，また，「……するために」のように「目的」として訳すことも可能。日本語訳の中では，田川訳が結果として訳している。パウロ自身が口述している順番を活かす意味でもこれがよいと思う。

[98] 「この世界の知恵」は，hē sophiā tou kosmou toutou。この「私訳」では，tou kosmou を「世界の」，tou kosmou toutou を「この世界の」，tou aiōnos toutou を「この世の」のように，訳し分けている。

[99] LXX 訳ヨブ記 5：12 f.，参照。ここも，やはり正確な引用ではない。12 節前半には，「悪賢い者たちの企み」boulās panourgōn とあり，13 節前半には，「知者たちを分別において捉える方」ho katalambanōn sophous en $tē_i$ phronēsei とある。パウロが「書かれています」と言って「引用」している文章は，ho drassomenos tous sophous en $tē_i$ $panourgiā_i$ autōn で，明らかに 13 節前半が下敷きになってはいるが，動詞の分詞 katalambanōn を drassomenos に入れ替え，前置詞句の中の名詞「分別」phronēsis を 12 節前半に使われている「悪賢い者たちの」panourgōn を手がかりに「悪賢さ」$panourgiā_i$ に替えている。「この世の」知者や「この世界の」知恵を否定的に捉える本文の文脈には，LXX 訳ヨブ記 5：13 の文章よりも，しっくり納まっていると言ってよい。なお，フランシスコ会聖書研究所訳は「悪賢さを利用して」と見事に意訳している。

てまた，「主は知っておられる，知者たちの考えが空しいことを」[100]（とも書かれています）。21 だから，誰も人間を誇ってはなりません。なぜなら，すべてはあなたがたのもの，パウロでもアポロでもケファでも[101]，世界でも命でも死でも，現在のことでも将来のことでも[102]，すべてはあなたがたのものですが，しかし，あなたがたはキリストのもの[103]，そしてキリストは神のものだからです[104]。

4

〈使徒の使命〉

1 このようなわけだから，わたしたちを人はキリストの奉仕者，神の神秘の管理人[105] と見なすべき[106] なのです。2 この場合，管理人にあっては，忠実な者であることが[107] 求められます。3 しかし，わたしにとっては，あなたがたによって裁かれようと，人間の裁判によって[108] 裁かれよ

---

100 LXX 訳詩編 93：11，参照。「主は知っておられる，人間の考えが空しいことを。」（マソラを底本とする新共同訳では，94：11）パウロは，ここでも「人間の」tōn anthrōpōn を「知者たちの」tōn sophōn に意図的に替えている。なお，「考え」と訳した dialogismos であるが，「思い巡らし，議論，論議，企み，計らい」をも意味する。

101 1：12，参照。

102 ローマ 8：38，参照。

103 ローマ 14：8，ガラテヤ 3：29，参照。

104 パウロにとって，あなたがた（＝わたしたち）＜キリスト＜神，という関係は動かしがたいものであった。

105 「奉仕者」は，hypēretās（hypēretēs）で「奉仕者，下役，従者，下働き」。「管理人」は，oikonomous（oikonomoi）で「管理者，管理人，会計係，管財人」。それぞれ「従者」，「管財人」とするのは田川訳。田川，前掲書，254 頁，参照。

106 「見なすべきなのです」は logizesthō＜logizomai「見なす，考える」。3 人称，単数，命令。

107 「忠実な者であることが」は，hina pistos tis heurethē$_{i}$。より直訳的には「忠実な者であると認められることが」であるが，heuriskō の受動の用例には単に「である」と訳した方がよいものが少なからずある。

108 「人間の裁判によって」は，hypo anthrōpinēs hēmerās。hēmerā は「日」

うと，全く取るに足りないことです[109]。そればかりでなく[110]，わたしは自分自身を裁くこともしません[111]。4 実際，わたしは自分自身についてやましさを覚えることは一切ありませんが，だからと言って，それを根拠に[112] わたしが義とされている[113] わけではありません。わたしを裁くのは主なのですから。5 だから，主が来られるまでは，あなたがたは何事も時期尚早に[114] 判断してはなりません。主は，闇に隠された事柄を照らし出し[115]，心の企てを明らかにされるでしょう[116]。そしてその時，賞賛が各自に神から与えられるでしょう。

であるが，特定の日，つまり「裁判の日」を意味し，転じて「裁判」をも意味するに至った。

109 「全く取るに足りないことです」は，eis elachiston estin。形容詞 mīkros「小さい」の最上級 elachistos を用いた用例。「どうでもよろしい」（田川訳），「少しも問題ではありません」（新共同訳），「何ら意に介しない」（協会訳），「いっこうに意に介しません」（フランシスコ会聖書研究所訳）など。「非常に小さなことです」（新改訳），「最もささいなことがらである」（青野訳）は誤訳ではないが肯定的なニュアンスが感じられる点がいただけない。

110 「そればかりでなく」は，alla。

111 3 節で「裁かれる」，「裁く」と訳したのは，anakrithō，anakrinō。anakrinō は，「取り調べる，尋問する，問い質す，裁く，判断する，批判する」を表す。新共同訳，フランシスコ会聖書研究所訳が「裁く」，田川訳は「批判する」。青野訳は「判断する」。

112 「それを根拠に」と訳したのは，en toutō$_{i}$。直訳は「そのことにおいて」（青野訳），「それで」（協会訳，新改訳，新共同訳，田川訳）。

113 「義とされている」と訳したのは，dedikaiōmai＜dikaioō。現在完了，受動。

114 「時期尚早に」は，pro kairou。直訳は「その時の前に」。「時に先立って」（青野訳）「先走りをして」（協会訳），「先走って」（新共同訳），「先走りして」（田川訳）。フランシスコ会聖書研究所訳の「早まって」が原文のニュアンスを見事に表している。

115 「照らし出し」は，phōtisei＜phōtizō。未来。phōs「光」に由来する動詞なので，ここはやはり，「明るみに出す」（協会訳，新改訳，新共同訳，フランシスコ会聖書研究所訳）よりも「照らし出す」（青野訳）と訳したいところ。3：13，14：25，ローマ 2：16，参照。

116 「明らかにされるでしょう」は，phanerōsai＜phaneroō。未来。「明らかにされます」（新改訳），「明らかにされるであろう」（青野訳）「あらわにされるであろう」（協会訳），「あらわにされます」（フランシスコ会聖書研究所訳），「顕にし給うであろう」（田川訳）。

6 さて，兄弟のみなさん，これらのことをわたしは，あなたがたのためを思って[117] わたし自身とアポロの話に変えました[118] が，それは，あなたがたが，わたしたちのうちに，書かれていることを越えないこと[119] を学んで，一人が（もう）一人に賛成し，他の人に反対して威張らないようになる[120] ためです。 7 一体，誰があなたを特別扱いする[121] のですか。戴かなかった[122] ものを何かあなたは持っていますか。もし，戴いたのであれば，どうして，あなたは戴かなかったかのように誇るのですか。 8 既に，あなたがたは満腹しています[123]，既に，富んでいます。わたしたち抜きで王になっています。いや，現に王になっていてくれればよかっ

---

117 「あなたがたのためを思って」と訳したのは，di' hymãs。「あなたがたのために」（新改訳，青野訳），「あなた方の故に」（田川訳）は，より直訳的。私訳はフランシスコ会聖書研究所訳に同じ，新共同訳はそれに倣い「あなたがたのためを思い」。

118 「……の話に変えました」と訳したのは，metaschēmatisa eis……。metaschēmatizō「変形する」の 1 aor. 1 人称，単数。

119 「書かれていることを越えないこと」は，to mē hyper ha gegraptai であるが，前後の文脈にしっくり納まっていない。この部分の解釈については，田川，前掲書，256〜257 頁，参照。ただし，私訳では，この部分を除いても意味が通じるようにした。それは，フランシスコ会聖書研究所訳（分冊版）の解説（21〜22 頁）で紹介されている，写本が筆写される過程で元来欄外注であった短文が誤って本文に加えられたという説を考慮したためである。この場合，想定される元の欄外注は，to mē hyper a gegraptai であり，to mē は「mē という単語」，a は「a という文字」を指す。細かい話だが，アルファを「文字」として読むか，単語「ha」（関係代名詞，中性，複数，対格）として読むか，ということになる。訳者には，傾聴に値する説だと思われる。

120 「威張らないようになる」は，physiousthe｜physioō。受動，2 人称，単数。physioō は，受動で，「膨れ上がる，威張る，思い上がる」など。5：2，13：4，ローマ 12：3，参照。

121 「特別扱いする」と訳したのは，diakrinei＜diakrinō。ここでは，「分ける，区別する」。

122 この節で「戴かなかった」，「戴いた」と訳したのは，ouk elabes，mē labōn，elabes で，lambanō「取る，受け取る，得る，手に入れる，摂る，もらう，戴く」の活用形。

123 「満腹しています」は，kekoresmenoi este。kekoresmenoi＜korennymi「満腹させる」。受動完了分詞，男性，複数，主格。

たのに[124]。そうすれば，わたしたちもあなたがたと一緒に王になっていたはずです。9 実際，わたしは（こう）考えます。神はわたしたち使徒を，あたかも死刑宣告を受けた者[125]のように，最後の者として指名なさいました[126]が，その結果，わたしたちは，世界に対して，御使いたちに対しても人間たちに対しても，見せ物となった[127]のです。10 わたしたちはキリストの故に愚か者となっており，あなたがたはキリストにあって賢い者[128]となっています。わたしたちは弱い者，あなたがたは強い者，あなたがたは栄誉に包まれる者[129]，わたしたちは侮辱される者[130]です。11 今この時に至るまで，わたしたちは飢え，渇き，着る物もなく[131]，殴

---

124 「いや，現に王になっていてくれればよかったのに」と訳したのは，kai ophelon ge ebasileusate。ophelon＜opheilō。2 aor. 1 人称，単数で，希望，願望を表す。ebasileusate＜basileuō「王である，王として統治（支配）する」。1 aor. 2 人称，複数。

125 「あたかも死刑宣告を受けた者のように」は，hōs epithanatious。epithanatioi は，「死に定められた者」（田川訳），「死刑囚」（協会訳，フランシスコ会聖書研究所訳，新共同訳，青野訳），「死罪に決まった者」（新改訳）。

126 「指名なさいました」は，apedeixen＜apodeiknymi。二重対格 a，b をとって，「a を b に（として）指名する，任命する」。1 aor. 3 人称，単数。

127 「見世物となった」は，theātron egenēthēmen。egenēthēmen＜gīnomai。1 aor. 受動，1 人称，複数。theātron は，「（野外）劇場，闘技場」から，そこでの「出し物，演劇」，さらに「見世物」を意味する。続く 11～13 節，ローマ 8：36，参照。

128 「賢い者」は，phronimoi＜phroneō「考える，心にかける，配慮する」。形容詞 phronimos は，「分別ある，思慮深い，賢い，賢明な」。

129 「栄誉に包まれる者」は，endoxoi。「栄誉に包まれている，栄誉に浴している，尊敬されている」。「栄光のうちにある者」（田川訳），「尊ばれている」（フランシスコ会聖書研究所訳），「尊ばれ」（新改訳），「栄誉を持っている」（新改訳），「栄誉を受けている」（青野訳）。

130 「侮辱される者」は，atimoi。「不名誉な，侮辱された，軽蔑された」。「名誉なき者」（田川訳），「卑しめられている」（協会訳），「卑しめられています」（新改訳），「侮辱されています」（新共同訳），「恥辱を受けている（青野訳）。

131 「着る物もなく」は，gymniteuomen＜gymniteuomai＜gymnos「裸の，上着を着けていない，下着（kitōn）だけの，粗末な身なりの」。「裸同然であり」（青野訳），「着る物がなく」（新共同訳），「着るものもなく」（フランシスコ会聖書研究所訳），「着る物もなく」（新改訳），「裸にされ」（協会訳）。

られ，住所も定まらず[132]，12 苦労しながら自分の手で働いています。罵られても[133] 祝福し，迫害されても耐え忍び，13 悪い噂を立てられても[134] 勧めている[135] のです。わたしたちは，世界の屑のようになりました，今に至るまで，万有の[136] 滓（のようになっています）。

14 わたしは，あなたがたに敬意を払って[137] これらのことを書いているのではありません。むしろ，愛するわたしの子どもたちとして教え諭す［ため］[138] なのです。15 実際，もし，あなたがたがキリストにあって一万人の養育係を持っていたとしても，しかし，父親を大勢持っているわけではありません。キリスト・イエスにあって，福音をとおして，このわたしが，あなたがたを生んだのです。

16 だから，あなたがたに勧めます。わたしに倣う者となりなさい。17 そのために，わたしはあなたがたの許にティモテオスを送ったのです。彼はわたしの愛する子どもであり，また主にあって忠実な者です。彼はあなたがたに，キリスト・［イエス］のうちにあるわたしの旅程を[139] 思い出

---

132 「住所も定まらず」は，astatoumen＜astateō。「住む場所，住所が定まっていない，住所不定の，身を寄せる場所がない」。

133 「罵られても」は，loidoroumenoi＜loidoreō「罵る，侮辱する」。パウロでは，ここだけに出る。なお，5：11，6：10 に名詞 loidoros「人を罵る者」が出る。

134 「悪い噂を立てられても」は，dysphēmoumenoi＜dysphēmeō「悪口を言う，悪評を立てる，誹謗・中傷する」。受動，分詞，男性，複数，主格。hapaxlegomenon。

135 「勧めている」は，parakaloumen。parakaleō は「勧める，勧告する，励ます，慰める，宥める，好意を持って話しかける，諭す」。いずれにせよ，パウロは，何を言われても，宣教の言葉を掛け続けてきた，と主張している。

136 「万有の」と訳したのは，pantōn。

137 「敬意を払って」は，entrepōn。目的を表す現在分詞。entrepō は従来，パウロの用例について例外的に「恥じ入らせる，恥をかかせる」の意味とされてきたが，明確な根拠はない。田川が「敬意を表するために」と解している。田川，前掲書，261，274～275 頁，参照。なお，6：5 には，名詞が pros entropēn という前置詞句の形で用いられている。

138 「教え諭す［ため］」は，nouthetō［n］。論理的には，「教え諭す」が「書く」graphō と並列しているのではなく，「恥をかかせる」entrepōn と並列していると解するのがよいので，nouthetō ではなく nouthetō［n］として読む。

139 「キリスト・［イエス］のうちにあるわたしの旅程を」は，tās hodous mou

させてくれるでしょう。すなわち，わたしが至る所，あらゆる教会で教えているとおりをそのままに。　18 しかし，あたかもわたしがあなたがたのところに行くことはないかのように，威張っている者が幾人かいます。19 しかし，主がお望みならば，わたしは直ちにあなたがたのところに行って，威張っている者たちの言葉ではなく，むしろその力を知りたいものです[140]。20 なぜなら，神の国[141] は言葉の中にはなく，力の中にあるからです。21 何をあなたがたは望みますか。鞭を持ってわたしがあなたがたのところに行くことですか，それとも，愛と柔和の霊を持って[142]（行くことですか）。

5

〈不道徳に対する裁き〉

1 そもそも[143]，あなたがたのあいだに不品行[144] があると聞いていますが，その不品行たるや異邦人のあいだにもないようなもので，ある者が父親の妻と結婚している[145] というほどのものだといいます。2 それで

---

tās en Christō$_i$ [Iēsou]。

140 「知りたいものです」は，gnōsomai＜ginōskō。未来。

141 「神の国」は，hē basileiā tou theou。もちろん「神の支配」の意味も含む。

142 「鞭を持って」と「愛と柔和の霊を持って」の「持って」はいずれも，前置詞 en である。

143 「そもそも」と訳したのは，holōs＜holos。通常は「そもそも」，「現に，実際に（actually）」と訳されている。しかし，「広く，至るところで，あまねく」（widely, everywhere）も可能。例えば，〝It is widely reported that……〟（The Catholic Study Bible, O. U. P., 1990. そうであれば，「あなたがたのあいだの不品行のことは広く知れ渡っていますが」となろうか。

144 「不品行」と訳したのは，porneiā。文脈から分かるとおり，性的な不品行を指している。「みだらな行い」（新共同訳），「みだらな行ない」（フランシスコ会聖書研究所訳），「不品行」（新改訳，青野訳），「不品行（な者）」（協会訳），「淫行」（田川訳）。

145 「父の妻と結婚している」と訳したのは，gynaīka tou patros echein。もちろん，「父の妻」は「ある者」にとっては義母に当たり，しかも，彼女は結

も，あなたがたは威張ったままでいるのですか。むしろ，あなたがたは嘆き悲しんで[146]，こんな行為を実際に行なった者をあなたがたのあいだから取り除くべきだった[147]のではありませんか。3 実際，このわたしは，からだでは離れていても霊では一緒にいて，（実際に）一緒にいる者のように，そんなことをしてしまった者を既に裁いてしまっています[148]。4 すなわち，［わたしたちの］主イエスの名において，あなたがたが一緒に集まり[149]，わたしの霊もまた（一緒にいて），わたしたちの主イエスの力に助けられて[150]，5 そのような者を，その肉が滅びるように，サタンに引き渡した[151]のですが，それは，彼の霊が主の日に救われるためです。　6 あなたがたの誇りは，よいものではありません。あなたがたは知らないのですか，僅かのパン種[152]が練り粉全体を膨らませること

婚した相手（「ある者」の父親）に先立たれて，その息子が彼女と結婚したものと思われる。ユダヤの慣習については，レビ記 18：8，参照。しかし，ローマ法でも「父の妻」との結婚は禁じられていた。詳しくは，田川，前掲書，264～265 頁，参照。

146 「嘆き悲しんで」と訳したのは，epenthēsate＜pentheō。1 aor. 2 人称，複数。文章の順番・流れを活かして訳すために，あたかも分詞のように訳した。

147 「取り除くべきだった」は，arthē$_{i}$＜airō「取り除く」。1 aor. 受動，接続法，3 人称，単数。直訳すると，「こんな行為を実際に行なった者があなたがたのあいだから取り除かれること（を思って），嘆き悲しむべきではなかったのか」。文章の順番・流れを活かすと，受動を能動に変えて訳さざるを得ない。

148 「裁いてしまっています」は，kekrika＜krinō「裁く」。現在完了，1 人称，単数。

149 「一緒に集まり」は，synachthentōn＜synagō「集める，呼び集める」，受動で「集まる」。1 aor. 受動分詞，男性，複数，属格，独立的用法。

150 「力に助けられて」と訳したのは，syn tē$_{i}$ dynamei。Cf. C. K. Barrett, *The First Epistle to the Corinthians* (Harper's New Testament Commentaries), Harper and Row, 1968, p. 125.

151 「引き渡した」は，paradounai＜paradidōmi「引き渡す，委ねる」。2 aor. 不定詞。目的や意図を表す用法と解する。主動詞は，3 節の kekrika「裁いてしまっています」。kekrika を判決とし，paradounai 以下をその具体的内容を記す主文と考えると分かりやすい。

152 「パン種」は，zymē。「酵母，イースト菌」。取り敢えず，伝統的な訳語「パン種」を使っておく。ただし，新共同訳の出エジプト 12，13 章では「酵母を入れないパン」のように「酵母」が訳語として使われ，新約では「パン種」

を。7 古いパン種を取り除いて清めなさい[153]，それは，あなたがたが新しい練り粉のままでいるためです。あなたがたは今「パン種の入っていない」者たちなのですから。なぜなら，わたしたちの過越の小羊としてキリストは屠られた[154]からです。8 だから，わたしたちが祭を祝うときには[155]，古いパン種も，悪と邪悪[156]のパン種も用いず，むしろ，パン種の入っていない純粋と真理の[157]パンを用いようではありませんか。9 わたしはあなたがたに，（先に）[158]手紙の中で，不品行を行なう者たちと付き合ってはいけない[159]と書きましたが，10 それは，この世界の不品行を行なう者たち，あるいは貪欲な者たちや略奪する者たち，あるいは偶像を礼拝する者たちとは[160]一切いけないということではありません。もしそんなことになれば，あなたがたは世界から出て行かなければならなくなってしまうでしょうから[161]。11 しかし，今わたしがあなたがた

が使われている。

153 「取り除いて清めなさい」は，ekkathārate＜ekkathairō「取り除いて清める」。1 aor. 命令，2 人称，複数。

154 「過越の子羊」は，to pascha。「屠られた」は，etythē＜thyō「屠る，屠殺する」。1 aor. 受動，3 人称，単数。出エジプト 12 章，参照。

155 ここは，文頭の hōste heortazōmen を訳文でも文頭にもってきたかったので，敢えて「わたしたちが祭を祝うときには」と意訳をした。

156 「悪と邪悪の」は，kakiās kai ponēriās。kakiā も ponēriā も特に区別されるべき概念として使われているわけではない。

157 「純粋と真理の」は，eilikrineiās kai alētheiās。これらも，先の「悪と邪悪」同様，区別されるべき概念として使われてはいない。

158 9 節冒頭の Egrapsa は，11 節の nyn de egrapsa とは違い，「書簡のアオリスト」ではなく，通常のアオリストの用法。

159 「付き合っていけない」は，mē synanamīgnysthai＜synanamīgnymi「一緒に混ぜ（合わせ）る」。受動で「交わる，付き合う，交際する」。受動，不定詞。

160 「貪欲な者たち」は，tois pleonektais。pleonektēs「貪欲な者，欲深い者，放縦な者」。「略奪する者たち」は，harpaxin。harpax 形容詞＜harpazō「略奪する，強奪する」。「偶像を礼拝する者たち」は，eidōlolatrais。eidōlolatrēs「偶像（を）礼拝（する）者」＜eidōlon「偶像」＋latreuō「仕える，礼拝する」。

161 epei……ara で，「そんなことになれば，……から」。epei は理油を表す接続詞，ara は推論を表す不変化詞。ōpheilete＜opheilō「負債がある，借金が

に，付き合ってはいけないと書いているのは，誰か兄弟と呼ばれている者が，不品行を行なう者，貪欲な者，偶像を礼拝する者，人を罵る者[162]，酒に溺れる者[163]，略奪する者のいずれかである場合であって，そのような者とは一緒に食事さえしてはいけないのです。12 一体，わたしと何の関わりがあるというのです[164]，外部の者を裁くことが。あなたがたは内部の者を裁くべきではありませんか。13 外部の者は，神が裁くのです。「邪悪な者をあなたがた自身の中から取り除きなさい。」[165]

6

〈信仰のない人々の前で法に訴えること〉

1 あなたがたのうちの誰かが，他の誰かに対して訴訟を起こすとすれば，敢えて不義なる者たちの前で[166] 裁いてもらおうとする[167] でしょう

ある」，不定詞とともに用いて「……しなければならない」。exeltheĩn＜exerchomai「出てゆく，立ち去る」。2 aor. 不定詞。

162 「人を罵る者」は loidoros。4：12（loidoroumenoi），参照。

163 「酒に溺れる者」は，methysos＜methyō「（ぶどう）酒に酔っている」。「酔っ払い，泥酔する者」。

164 「一体，わたしと何の関わりがあるというのです」は，ti gar moi……;。

165 LXX 訳申命記 17：7，参照。パウロは，引用に際して，ここでもやはり，動詞を元の exareĩs から exārate に替えている。原文は，未来，2 人称，単数であるが，それをパウロは，文脈に合わせて，1 aor. 2 人称，命令に入れ替えた。動詞の現在，1 人称，単数形は exairō。hapaxlegomenon。

166 「不義なる者たちの前で」は，epi tōn adikōn。続いて kai ouchi の後に出る epi tōn hagiōn と対比されているので，「不義なる者たち」という表現は，異邦人を生まれながらの罪人とするユダヤの伝統的かつ常識的な理解が召命以後のパウロにも根強く残っていたことを示している。この世界には，「聖なる者たち」（十字架上で処刑され，神によって復活させられたイエスをメシア＝キリストとして受け入れている者たち，後に christianoi と呼ばれることになる者たち）とそれ以外の「不義なる者たち」（ここには，「生まれながらの罪人」たる異邦人と神の約束の対象であるにも拘わらず，神の意志を受け入れない限りでのイスラエルの民も含まれるだろう）しかいないことになるだろう。

167 「敢えて……裁いてもらおうとする」は，Tolmã¡……krīnesthai。tolmaō

か，聖なる人々の前ではなしに。2 それとも，あなたがたは知らないのですか，聖なる人々こそ世界を裁くのだ[168] ということを。そして，もし，あなたがたの手で[169] 世界が裁かれるとすれば，ほんの些細な訴訟（を扱う任）にも[170] あなたがたは値しないのでしょうか。3 あなたがたは知らないのですか，わたしたちが御使いたちを裁くことになるのを，まして，日常的な事柄[171] はなおさらでしょう。4 それなのに，日常的な事柄に関する訴訟[172] が起きると，教会の中で軽んじられている者たちを[173]，あなたがたは（裁判官の）席に着かせる[174] のですか。5 あなたがたに敬意を払うべく[175]，わたしは言っているのです。それほどまでに[176]，あな

は，不定詞とともに用いて「敢えて……する」を表す。その不定詞が krīnesthai＜krīnō「裁く」。中・受動相で「法廷で争う，訴える」の意味になるが，ここは受動として「裁かれる，裁いてもらう」と訳しておいてよいと思う。なお，ミークスによれば，「パピルスが示すように，力のない承認あるいは村の農夫たちでさえも，隣人の侵害に関して苦情を申し立てるために行政長官の前に出ることができ，そして実際に出頭した，訴訟好きの時代であった」。ウェイン・A・ミークス，前掲書，175 頁，参照。

168 ダニエル 7：22，知恵 3：8，参照。

169 「あなたがたの手で」と訳したのは，en hymῖn。青野によれば，この en の使い方は「法廷用語」とのことだが，敢えてそこまで仰々しく言わなくても，この程度の意味は，通常の en の意味から導き出せるだろう。

170 「ほんの些細な訴訟（を扱う任）にも」は，kritēriōn elachistōn。最上級なので，このように訳した。anaxioi este「あなたがたは値しない」との関係で属格になっている。

171 「日常的な事柄」は biōtika。biōtikos「日常生活上の（細々とした）事柄」＜bios「日常生活」。

172 「日常的な事柄に関する訴訟」は，biōtika……kritēriā。

173 「軽んじられている者たちを」は，tous exouthenēmenous＜exoutheneō「軽んじる，侮る，軽蔑する」。受動，完了分詞，男性，複数，対格。

174 「あなたがたは（裁判官の）席に着かせる」は，kathizete＜katizō「席に着かせる，席に着く」。他動詞としても自動詞としても用いる。この基本的意味は転じて，ある特別な席，つまり，裁判官の席，あるいは王座にも使われるようになった。ここは，文脈から当然，「裁判官の席に着かせる」を意味する。

175 「あなたがたに敬意を払うべく」と訳したのは，pros entropēn hymῖn。田川，前掲書，274～275 頁，参照。

176 「それほどまでに」と訳したのは，houtōs。4 節の内容を受けて，「そうせ

たがたの中には，兄弟（と兄弟）のあいだを[177]裁くことができるような知者が一人もいないのですか。6 それなのに[178]，兄弟が兄弟に対して訴訟を起こす[179]のですか，しかも，そんなことを信仰のない者たちの前で（するのですか）。　7［だから］既に，あなたがたにとってはそもそも負けなのです，自分たちのあいだに訴訟沙汰[180]があること（自体）が。どうして，むしろ，あなたがたは不正を受けたままでいない[181]のですか。どうして，むしろ，あなたがたは奪われたままでいない[182]のですか。8 かえって，あなたがたの方が不正を行ない，奪っています，しかも，それを兄弟にしているのです。

9 それとも，あなたがたは知らないのですか，不義なる者が神の国を相続することはないということを。惑わされてはいけません[183]。不品行

ざるを得ないほど」。

177　原文は，ana meson tou adelphou であるが，それに kai tou adelphou という文言が続いている写本が若干ある。こちらの方が元来のものである可能性はあるだろう。直後のよく似た文言が筆写の過程で落とされたか。一応，「（と兄弟）」を挿入しておいた。

178　「それなのに」は，alla。「兄弟間を裁く能力のある者が一人もいないにも拘わらず」の意味。

179　「兄弟が兄弟に対して訴訟を起こす」は，adelphos meta adelphou krīnetai。

180　「訴訟沙汰」は，krīmata。

181　「あなたがたは不正を受けたままでいない」は，ouchi……adikeīsthe＜adikeō「不正（不義）を行なう，損害を加える，悪事をはたらく」。受動，2 人称，複数。なお，動詞 adikeō については，「不正を行なう，不正を受ける」と訳したが，adikos（adikoi）が名詞として用いられている場合は，「不義なる者」と訳した。なお，プラトンの対話篇『ゴルギアス』469 C のソクラテスの言葉「だがもし，人に不正を行なうか，それとも自分が不正を受けるか，そのどちらかがやむをえないとすれば，不正を行なうよりも，むしろ不正を受けるほうを選びたいね」（加来彰俊訳「ゴルギアス」『プラトン全集　9　ゴルギアス　加来彰俊訳　メノン　藤沢令夫訳』岩波書店，1974 年，70 頁）を参照。使われているのは同じ動詞のやはり能動形・受動形である。

182　「あなたがたは奪われたままでいない」は，ouchi……apostereīsthe＜apostereō「奪う，奪い取る」。受動，2 人称，複数。

183　「惑わされてはいけません」は，mē planāsthe＜planaō「迷わせる，惑わす，欺く」。受動，命令，2 人称，複数。

を行なう者も，偶像を礼拝する者も，姦通する者[184]も，軟弱な者[185]も，男色をする者[186]も，10 泥棒も，貪欲な者も，酒に溺れる者も，人を罵る者も，略奪する者も，決して神の国を相続することはありません。11 このような者も，あなたがたの中には幾人かいました。しかし，あなたがたは洗われ，聖別され，義とされた[187]のです，主イエス・キリストの名において，そして，わたしたちの神の霊において。

〈あなたがたのからだで神を讃えなさい〉

12 すべてのことがわたしには許されています[188]。しかし，すべてのことが役に立つわけではありません。すべてのことがわたしには許されて

---

184 「姦通する者」は，moichoi。この名詞から，moicheuō「姦通する」，moicheiā「姦通」などが派生した。

185 「軟弱な者」は，malakoi。malakos，形容詞。「柔らかい」から，「柔弱な，軟弱な，柔な」。ただし，転じて，男の同性愛における受身側を形容するようになり，男娼をも意味するようになった，という説もある。田川，前掲書，275〜276 頁，参照。

186 「男色をする者」は，arsenokoītai。arsenokoitēs＜arsēn 形容詞「男の，雄の，少年の」＋koitē 名詞「寝床，夫婦の床，性交」。文字どおり，男（少年）と性交する男。ローマ 1：27，参照。

187 原文は，alla apelousasthe, alla hēgiasthēte, alla edikaiōthēte。分かるとおり，alla「しかし」が繰り返されている。ギリシア語では，なかなかリズミカルで調子がよいが，日本語のリズムには馴染まないので，最初の「しかし」だけを残し，あとは省略した。動詞は，apolouō，hagiazō，dikaioōn のいずれも 1 aor. 受動，2 人称，複数。

188 従来，12 節で二度繰り返されるこの文章は，コリントにおけるパウロの反対者たちを論駁するために，彼らのスローガンをパウロが引用したものだとする，かなり有力な説があったことは事実である。しかし，それは厭くまでも現代の研究者たちの推論である。田川，前掲書，276〜277 頁，参照。H. Balz による項目 exestin, exon（『ギリシア語　新約聖書釈義辞典　II』教文館，1994 年，30〜31 頁），参照。なお，原文 panta moi exestin で用いられている動詞 exestin は非人称的に用いられ，「許されている，できる，可能である，自由である」を意味し，否定詞を伴って法的ないしは祭儀的禁止を表す。名詞 exousiā「自由，権限，能力，権力，支配権，主権」は，この動詞に由来し，また，12 節後半に出る exousiasthēsomai＜exousiazō「支配する，……に対して主権を有する」は exousiā の派生語である。

います。しかし，そのわたしが何かによって支配されることはありません。13 食べ物は腹のため，そして腹は食べ物のためにあります。しかし，神はそれもこれも[189] 無力にされるのです[190]。からだは不品行のためではなく，むしろ，主のためにあり，そして，主はからだのために（おられるのです）。14 しかし，神は主を立ち上がらせ[191]，また，わたしたちをもその力によって立ち上がらせてくださるでしょう[192]。15 あなたがたは知らないのですか，あなたがたのからだがキリストのからだの様々な部分[193] であることを。それなのに[194]，そのキリストのからだの様々な部分をわたしが取って[195]，売春婦のからだの様々な部分にするでしょうか。断じて，否[196] です。16［それとも］あなたがたは知らないのですか，売春婦と交わる者[197] が（彼女と）一つのからだになることを。実

---

189 「それもこれも」と訳したのは，kai tautēn kai taũta。女性・単数の指示代名詞 tautēn は hē　koiliā「腹」を，中性・複数の指示代名詞 taũta は ta brōmata「食べ物」を指す。だから，意味的には「腹も食べ物も」となる。ただし，日本語表現では，単数•複数の区別を敢えてせずに「それもこれも」がぴったりくる。

190 「無力にされる」は，katargēsei＜katargeō「無力にする」。未来，３人称，単数。なお，同じ動詞は 1：28，2：6 でも使われている。

191 「立ち上がらせ」と訳したのは，ēgeiren＜egeirō「目覚めさせる，起こす，引き起こす，立ち上がらせる」。転じて，「蘇らせる，復活させる」。1 aor. ３人称，単数。

192 「立ち上がらせてくださるでしょう」と同じ訳をつけたのは，exegeireî＜exegeirō。未来，３人称，単数。

193 「体の様々の部分」と訳したのは，melē＜melos「体の部分，肢体」。複数，対格。「肢体」（協会訳，青野訳，田川訳），「体の部分」（フランシスコ会聖書研究所訳），「からだの一部」（新改訳），「体の一部」。しかし，少なくとも「肢体」は朗読に堪えない。

194 「それなのに」と訳したのは，oun。

195 「わたしが取って」は，ārās＜airō「取り上げる，取り除く，切り取る，奪い取る」。1 aor. 分詞，男性，単数，主格。なお，ここで動詞が 1 人称，単数に代わっていることに，田川が注意を促している。田川，前掲書，277〜278 頁，参照。

196 「断じて，否」は，mē genoito。パウロがよく使う強い否定を表す言い回し。「そんなことは決してない。とんでもない（ことだ）」。

197 「売春婦と交わる者」は，kollōmenos $tē_i$ $pornē_i$。kollōmenos＜kollaō＜

際，「二人は一体となる[198]」と言われています。17 しかし，主と交わる者[199]は，（主と）一つの霊になるのです。　18 不品行を避けなさい。人間が犯す罪はすべて，からだの外に[200]あります。しかし，不品行を行なう者は，自分のからだに対して[201]罪を犯しているのです。19 それとも，あなたがたは知らないのですか，あなたがたのからだがあなたがたのうちにある聖霊の神殿[202]であり，その聖霊はあなたがたが神からいただいたものであって，あなたがたは自分自身のものではないということを。20 実際，あなたがたは代価を払って買い取られた[203]のです。だから[204]，あな

---

kolla「膠」。つまり，「膠でくっつける，（膠でつけたように）接合する，親しく交わる，結び合う」。分詞，男性，単数，主格。「いっしょになる者」（田川訳），「結ばれる者」（フランシスコ会聖書研究所訳），「むすばれる者」（本田訳），「つく者」（協会訳），「つくもの」（前田訳）。「接合させられる者」（青野訳）はいただけない。なお，15 節にも出る hē pornē は「遊女」（協会訳，前田訳，新改訳，青野訳），「娼婦」（柳生訳，新共同訳，本田訳）。なお，「売春婦」と訳すのは，フランシスコ会聖書研究所訳，田川訳。

198 「二人は一体となる」は，esontai hoi dyo eis sakra miān で，LXX 訳創世紀 2：24 の引用だが，引用に際して，パウロは esontai と hoi dyo の間に，gar, phēsin「実際，……と言われています」を挿入している。引用文を直訳すると「二人は一つの肉となるだろう」。

199 「主と交わる者」は，ho kollōmenos $tō_l$ $kyriō_l$。すぐ分かるとおり，16 節の「売春婦と交わる者」でもここの「主と交わる者」でも，パウロは同じ動詞 kollaō の分詞 kollōmenos を使っている。

200 「からだの外に」は，ektos tou sōmatos。

201 「自分のからだに対して」は，eis to idion sōma。ニュアンスは，「自分のからだそのものに対して」。

202 「聖霊の神殿」は，naos tou hagiou pneumatos。原文では，tou と pneumatos の間に，前置詞句 en hymīn「あなたがたのうち（ある）」が挿入されている。

203 「あなたがたは代価を払って買い取られた」は，ēgorasthēte……tīmēs。ēgorasthēte＜agorazō「（市場で）買う，買い取る，贖う」。代価は通常，属格で表される。1 aor. 2 人称，複数。agora「市場，広場」の派生語。tīmē「価値，価格，代価，代金，貴いもの，貴い地位，名誉，謝礼，謝金，報酬」。

204 「だから」と訳したのは，不変化詞 dē。ここでの可能性は，ほかに「どうか，是非」。

たがたのからだで[205] 神を讃えなさい[206]。

---

[205] 「あなたがたのからだで」は，en tō$_{i}$ sōmati hymōn。

[206] 「讃えなさい」は，doxasate＜doxazō「讃える，賞賛する，讃美する，褒め称える，崇める，栄光を与える（帰す），尊ぶ，」。もちろん，この動詞は，名詞 doxa「栄誉，賞賛，名誉，名声，尊敬，讃美，栄光，尊厳，威信，輝き，栄華」に由来する。